

| | |
|---|---|
| 1 学校教育目標 | 2 本年度の重点目標 |
| 気づき、考え、実行する子どもの育成 ～博愛の里 伸びゆくわれら 中川小～ | 1. 基礎学力の定着、活用力の向上を目指す。【学力向上】 国語科を中心として「伝え合う力を高める」研究を行う。 2. ボランティア活動や地域との交流活動を通して、自己肯定感 や有用感を培い、人前でも堂々と自己表現できる児童を育てる。 |

達成度 A：ほぼ達成できた
 B：概ね達成できた
 C：やや不十分である
 D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

| 3 目標・評価 | | | | | | | | 学校関係者評価委員会から |
|-----------------------------|-----------|--------------------|---|---|-----|---|---|---|
| ① 基礎学力の定着、活用力の向上を目指す。【学力向上】 | | | | | | | | 意見や提言など |
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 | |
| 教育活動 | ●学力向上 | 基礎学力の定着と自己学習力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもち、生き生きと伝え合う児童を育成する。 家庭学習の習慣を定着させ、学年に応じた目標学習時間達成児童を80%以上にする。 | <ul style="list-style-type: none"> 言語活動を取り入れた授業づくりと指導方法を工夫する。 「家庭学習がんばろう週間」を設定し、家庭での学習習慣を見直したり、学習内容を吟味したり、効果的なノートづくりなどに取組ませる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 国語科を中心に言語活動を導入した学び合いの場面を設定し、授業改善の重要課題と位置づけ取り組んだことが、学習状況調査等では、活用力をはじめ、様々なところで課題が見られた。 「家庭学習がんばろう週間」は学期を追うごとに家庭学習の時間の目小達成率も上がっていき、2学期は全学年で達成率が90%を超えた。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き、授業に言語活動を積極的に取り入れ、学力向上につながる授業改善に努めている。同時に、言葉や計算などの知識・技能の定着のためにスキル学習等にも力を入れていく。 家庭学習時間は達成率100%をめざして学校と家庭が連携しながら取り組んでいく。インターネット等の使用時間やそれに伴う睡眠時間も合わせて、改善に向けた指導を強化していく。 | <ul style="list-style-type: none"> 国算社理の結果を示され実態が分かった。母集団が少なく学年差が生じるのはやむをえない。一喜一憂せずじっくりと取り組んでほしい。子どもの学力に応じて丁寧に教えてもらえるので、良い結果が出ると思われている。 どの学年も電子黒板をフルに活用した授業作りがなされておられ、鍵となる発問にどのように考えればいいのか適切な指示がされていた。算数ノートを見ると、今の学習の足跡が良く分り、学力向上につながっている。 1教科でいいので、県平均をはるかに超える科目を作ることが必要。 本腰を入れて学力向上に取り組む必要のある学年がある。 |
| 学校運営 | ○教職員の資質向上 | 研究授業・職員研修の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 校内研究を推進し、全員が研究主題に基づいた研究授業を行う。 特別支援教育、生徒指導などの職員研修を年間3回以上行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 国語科の研究授業を実施し、指導内容、指導法工夫改善の研究を実施する。 研究授業を年間計画に位置づけ、計画的に実行する。外部講師を招聘し研修会の質を高める。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 外部から講師を招き、講習会を1度、授業研究会の助言を2度していただいたことで、今後の校内研究の方向性が明らかになってきた。 | <ul style="list-style-type: none"> 研究授業を中心とした教員一人一人の授業改善のための研修を今後も引き続き実施していく。同時に掲示物等の環境改善にも努めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で研究主題を設け取り組んでおられ、共通理解が得られている。課題解決に向けて研修を積み、果敢に挑戦してほしい。 5・6年の学習態度がよくなった。日頃から教材研究によく取り組んでいることで、児童の理解力が高まっている。 特別支援教育は家庭の協力が何より。温かく愛情を注いで、成長する姿を見てほしい。 先生も得意科目を作ることが必要。教職員の転出・転入が多いが、どうにかならないものか。 |

| ② ボランティア活動や地域との交流活動を通して、堂々と自己表現できる児童を育てる。 | | | | | | | | 学校関係者評価委員会から |
|---|-------------|---------------------------|--|--|-----|---|--|---|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 | 意見や提言など |
| 教育活動 | ●心の教育 | ボランティア活動の推進 特別支援教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動を通して「気づき・考え・実行」を行動化させ、「できた」といえる児童を80%以上にする。 児童の実態を把握し、一人ひとりに応じた適切な支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> フルタイムやパートボランティアを積極的に呼びかける。 「美化活動、ごみ拾い、花壇の花の管理を日常化させる」。 毎月1回の生徒支援会議で実態把握、支援の共通理解を図る。個別の支援計画を作成し、具体的な支援内容を決め、実践する。 支援学級との交流を推進する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 年3回のV・S週間やふるさとボランティアを実施することで児童の意識を高めることができた。(12月実施の意識調査「気づき・考え・実行する」ができた)と答えた児童は91%) 月1回の生徒支援会議で、全職員で児童の実態や支援方法を共有することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で「気づき・考え・実行する」を意識した行動ができるようになるまでには至っていないので、活動の意義を振り返らせたり、地域からの声を児童に返したりすることで児童の自己有用感を高めたい。 生徒支援会議の中で特に必要のある児童について、具体的な支援の方法について職員で協議していききたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童の挨拶が良くできていると思う。学校だけでなく地域でも、こちらから挨拶すると必ず元気のいい挨拶が必ず帰ってくる。 学校に着くと児童から明るい挨拶を受け嬉しくなる。登校時、通学路の信号機で一々でも横断した後の会話を覚えてもらっている。学校の敷地から離れていても、地域の方々が見守り、褒めていることを伝えてほしい。 中川副校区は佐野常民の精神が伝わっているところ。世代を超えボランティア活動が定着している。「気づき・考え・実行する」を校是として、子どもたちには一日一善を生活の中で積み重ね、博愛の里の誇りとしてほしい。 何のボランティアを行うか、具体的な案を作成することが必要。 |
| 教育活動 | ●いじめ問題への対応 | 道徳教育、人権・同和教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 特別な教科「道徳」を充実させる。 「いじめ・命を考える日」を中心に児童の人権意識を高める。 心のアンケートの「悲しかったこと・嫌だったこと」の項目の記載を減らす。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎月「道徳」の履修状況を教務に報告し、確認・指導を行う。また、地域や保護者に「道徳」の授業を公開する。 月1回の生徒支援会議を活用し、些細なサインを見落とさず早期発見につとめる。 毎月1日に、「〇月の心として、児童アンケートを実施し、問題の早期発見」につとめる。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 参観日に授業公開日を設定することで全クラス取り組むことができた。 支援会議では、生活指導と支援を要する児童について情報交換し、解決のための支援ができた。 アンケートに記載されたことについては、個別に対応することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 人権・同和教育の視点を取り入れた教材による道徳の授業実践に取り組む必要がある。 支援会議の見直しにより、「〇月の心」の活用や気になる児童についても広げていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 欠席日数の多い児童がいないので、友達同士の関わりはうまくいっていると思う。 少人数のため、同級生同士で切磋琢磨する機会は少ない。学年の枠を超えて交流の機会を増やし信頼できる友達ができるとうい。子供同士で教えあひ助け合う人間関係ができるとうい。 いじめは非常に分かりにくい。いじめを感じたら子どもと会話を増やすこと。道徳の時間を増やし有効活用することが重要。 |
| 教育活動 | ●健康・体づくり | 健康増進・体力の向上 運動に親しむ習慣の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 保健便りを月1回発行し、その時々々の問題を家庭に啓発する。 食事の意義を理解し、朝食の喫食率95%を維持する。 休み時間の外遊びを奨励し、なわとび等で児童の体力アップを図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 保健の時間、家庭科の時間等を活用し、十分な睡眠・早起きが生活リズムをつくり、健康にいいことを理解させる。 給食指導の時間等に、偏りのない食事が体にいいことを理解させる。 健康委員会になわとび大会やスポーツ大会を計画、運営させることにより、児童の意識を高める。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 保健だよりを毎月発行し、健康の保持増進のための家庭向けの啓発を行うことができた。 健康委員会が企画・運営したスポーツ大会では種目の内容を見直し、児童が休み時間にも楽しめるような種目にすることで運動により親しむことができた。 なわとび大会では、縦割り班ごとにすすんで八の字跳びの練習に取り組む。今年度も「さがんキッズスポーツチャレンジ」で好成績を上げることができた。 朝食喫食率は全校平均で87%だった一方、学年による差が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な機会を利用し、早寝早起きや規則正しい食生活についての指導や、掲示等による啓発を行ったが、児童らの実践にかなわなかった部分がある。 家庭を巻き込んだ対策が必要である。 (学年や個に応じた指導に注力する必要がある) スポーツ大会や「さがんキッズスポーツチャレンジ」等で、投げる運動に積極的に取り組ませる。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業参観日の20分休み、外遊びを運動を楽しむ姿が見られた。「楽しく遊んでいるなあ」という印象を受けた。 自分たちの時代は、外遊びばかりで体力がついていた。小学校時代は体力づくりが重要だと思ふ。 遊ぶために子ども時代がと言われる。色々な遊びを通じて成長してほしい。縄跳の楽しさを体験し体力づくりができるのはいいこと。効果の出る取り組みだと思ふ。 |
| 学校運営 | ○博愛の里子どもづくり | 「博愛の里子どもづくり」の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 中川副まちづくり協議会・老人クラブ等との連携を深め、郷土愛を育てる。 佐野常民生誕の地に生まれ育ったことを誇りに思う児童を90%以上に上げる。 小中連携、小小連携、幼小連携を深めるとともに、幼・保・小・中の教職員の情報交換・共通理解をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> 「ふれあい大運動会」を地域と共催で行い、地域との連携・ふれあいを密にする。 JRC登録式を実施し、青少年赤十字活動への意識を高める。 各年生の川副中学校との交流、低学年の博愛の里幼稚園との交流を計画的に実行し、交流活動内容の充実を図る。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 児童の意識調査では「地域の歴史や佐野先生について学習したことを通して中小のことを自慢に思う」と答えた児童は87%であった。 小中連携については年3回の部会と授業参観などで情報交換ができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 歴史について学習を深めているが、学校との連携はよくできている。もっと地域との交流が深まるイベントを無理のない方法で増やしていけたら…。今の学校独自の取り組みに、地域が手助けできるようになればと思う。 町づくり協議会や老人クラブの団体は、佐野常民の博愛精神を誇りに積極的に活動している。子どもたちと接することは元気をもらい生きがいとされている。これらの団体との交流活動は進めてほしい。 | |
| 学校運営 | ○開かれた学校づくり | 保護者・地域社会と学校の連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> 授業参観や学級懇談会等の行事への参加率を80%に上げる。 学校便り発行を月に1回以上行う。 ホームページの更新を随時行い、活動の様子を知らせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 案内状の発送やメール配信で行事への出席を呼びかける。授業参観の内容を学校便り等で分かりやすく知らせる。 学校便りは、地域へも回覧等で広く知らせる。 もちつき大会やふるさと交流ボランティア等を地域と共催で行う。 | A | <ul style="list-style-type: none"> 職員のアンケートでは16:1で「当てはまる」になっていた。保護者のアンケートでも79.2%の保護者が「思う」と答えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 通信や文書での案内に加え、メールでの臨機応変のお知らせもできていた。今後も、必要に応じ、広く保護者や地域にアピールしてほしい。 HPも充実させていく必要があるが、それに必要な時間と需要を考えると、現状維持に努めたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域に開かれた学校は時代の要請であり教育現場では避けられないこと。やもすると過度な要求や質問に感わされる事案が生じることもあるが、教育の主体は学校にあるので、子どもたちのためにも毅然たる態度で臨んでほしい。 PTA主催の講演があるときは、保護者だけでなく地域の人も参加できるように情報を広げてほしい。(公民館にチラシを置くことで情報提供等) |

| 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目 | | | | | | | | 学校関係者評価委員会から |
|----------------------|--------------------|--------------------|--|--|-----|--|---|---|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策 | 意見や提言など |
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | 校務等の効率化の促進 | <ul style="list-style-type: none"> 各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について前年度一人平均23.2時間を、30%減の16.0時間にする。 | <ul style="list-style-type: none"> 公務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 各教職員の勤務時間を確実に把握する。 各種会議の縮減、職員連絡会を隔週に実施、研究推進委員会の廃止、校内研究会を2本まとめて実施等、学校運営上の精選を行う。 仕事の優先順位による下位順取消等、負担軽減を行い、定時退勤日遂行の可視化をすなどとして、職員の意識改革を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務時間昨年度の70%の目標を掲げて取り組んできたが、1・2学期の結果が82.9%であった。達成できた職員は1人であった。 職員のアンケート結果が「当てはまる13:当てはまらない4」で、効果は見られなかったが、まだ結果が出るにはいたっていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 今年の結果をもとに、改善していく点を本年度中に考察してもらう。 | <ul style="list-style-type: none"> 働き方改革は国が進める重点事業。これまでの慣習にとらわれず進めてほしい。無駄を省き、その分を家庭の時間や生きがいに使ってもらえれば、エネルギーが湧き日々の教育活動にプラスになる。新しい働き方を見つけてください。 学校の先生は時間外勤務が多いと聞いている。学校からは早く帰って、家庭でできることを考えるのはどうか。 先生方の仕事量は年々増えているのに、効率的な業務の取り組みは難しい。行き過ぎた業務とならないよう、先生方の健康管理を第一に考え、日々の業務に励んでいただきたい。 |

| | |
|---|---|
| 4 本年度のまとめ・次年度の取組 | 学校関係者評価委員会から (学校運営・教育活動についての感想・気づき、学校に対する意見や提言) |
| <ul style="list-style-type: none"> 「授業改善」「家庭学習の定着」「読書の奨励」に取り組んできたが、学力状況調査の結果が県平均に到達しなかった。校内研究では、全担任が研究授業を行い主体的な実践となったが、今後、「授業改善の一層の工夫、実践」をはじめ「家庭での学習時間の確保」等、学力向上につながる取り組みに力を入れていく必要がある。 心の教育については、保護者、教職員アンケートともに好意的かつ高い評価結果であった。今後とも早期発見早期対応のできる体制作りと子どもへの日常的な観察の視点を研修によって高めたい。 県のさがんキッズ体力アップ事業のスポーツチャレンジで優秀校として表彰された。今後も健康委員会を中心に外遊びを奨励し、体力づくりに努めていく。 佐野常民生誕の地であって、色々な行事が地域と共にある。そのような環境の中で子どもたちは当たり前前に地域と触れ合い、当たり前前に博愛の精神を誇りに思い受け継いでいる。今後も、学校の独自性は保ちつつも、広く地域と協同して児童を育てていく連携体制を整えていく。 業務が減らない以上、考え方を考えていくしかない。時間外勤務時間昨年度比83%は達成できたが、仕事の軽重、優先順位、取捨選択を考えながら、もっと効率よく仕事ができるよう研修を積んでいく。 | <ul style="list-style-type: none"> 用事があって時々学校へ向くが、清掃はよくできていると思う。児童数は減ってきているが、協力し合ってきたきれいな清掃活動に取り組んでいると感じている。 本の読み聞かせに来ているが、どの学年も聞き方が上手。読み終わった後の児童の表情が一番気になるところだが、「また読みたい」という気持ちにさせてくれる。本の力を借りて成長の手助けをこれからもしていきたい。 花壇の手入れが良くできている。縦割り班で活動されているが、よくまとまっている。これからもきれいな花をいっぱい咲かせてほしい。 読書状況や生活習慣状況の実態と、そこから推し量られる学級の状況に心が騒いだ。しかし、学校上げの取り組みによって児童の落ち着きが見られ、基礎学力の定着へつながっていくだろう。大変だろうがお願いしたい。 校長先生を中心に職員全体で共通理解のもと素晴らしい伝統を築かれている。地域の人々は子どもたちの成長を我がごとのように喜んでいる。失敗を恐れず勇気を奮って難題解決に向かってほしい。現状維持は数年経てば低下していく。一歩一歩前に進め、新しい校風作り挑戦してほしい。私たちは側面から温かく見守り支援していきたい。 |

●は共通評価項目、○は独自評価項目